

2. 火山の概況

(平成16年1月15日～平成16年1月21日)

期間中、5火山の火山活動度レベル(以下、レベルという。)に変化はなかった。

阿蘇山は、前期間に規模の大きい土砂噴出が発生してレベルが2から3に上昇している。浅部の熱的な活動が活発である。

浅間山では地震がやや多い状態が続いた(レベル2)。

霧島山では御鉢の火山活動がやや収まった。

その他の火山については、吾妻山では地震が多くなった。三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。諏訪之瀬島では噴火があった。

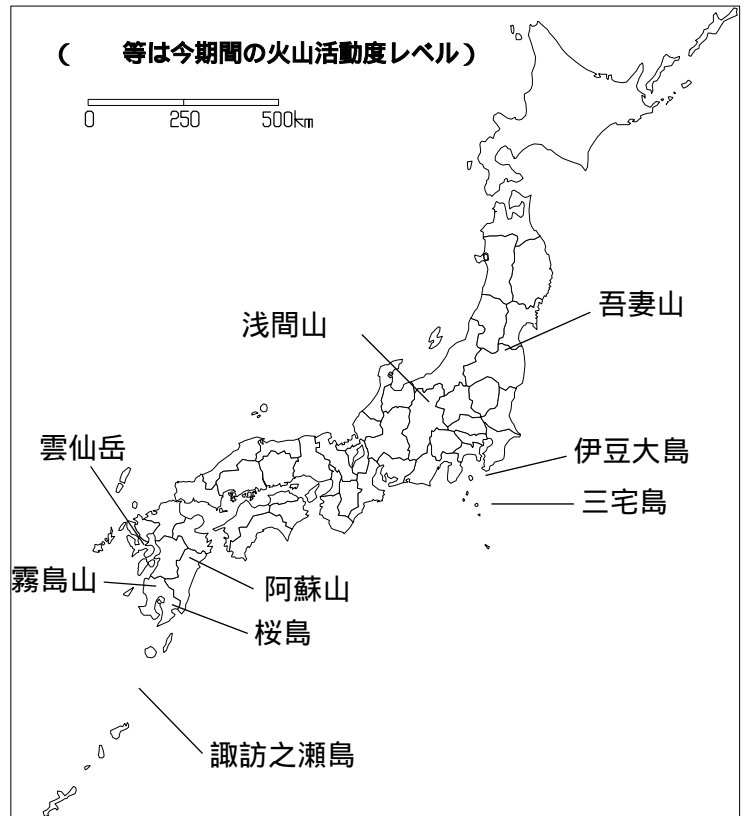


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		吾妻山	焼岳	三宅島	福徳岡ノ場	霧島山	諏訪之瀬島	
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号							
4	1/15- 1/21																	
3	1/ 8- 1/14																	
2	1/ 1- 1/ 7																	
1	12/25-12/31																	
52	12/18-12/24																	

注1 記号の意味

- : 噴火した火山
- : 観測データ等に変化があった火山
- : 前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等
- : その他記事を掲載した火山
- 等の丸付き数字**: 火山活動度レベル

注2

本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

吾妻山 [地震] <期間外の記述を含む>

一切経山(大穴火口付近)の地下、深さ数 km を震源とする微小な地震は、昨年12月以降増加傾向にあったが、1月10日～17日にかけてさらに多くなった。18日以降は減少したものの、22日になって再び増加している(以上図2)。

なお、この地震活動に関係して、噴気活動や地殻変動には特に変化は観測されていない。

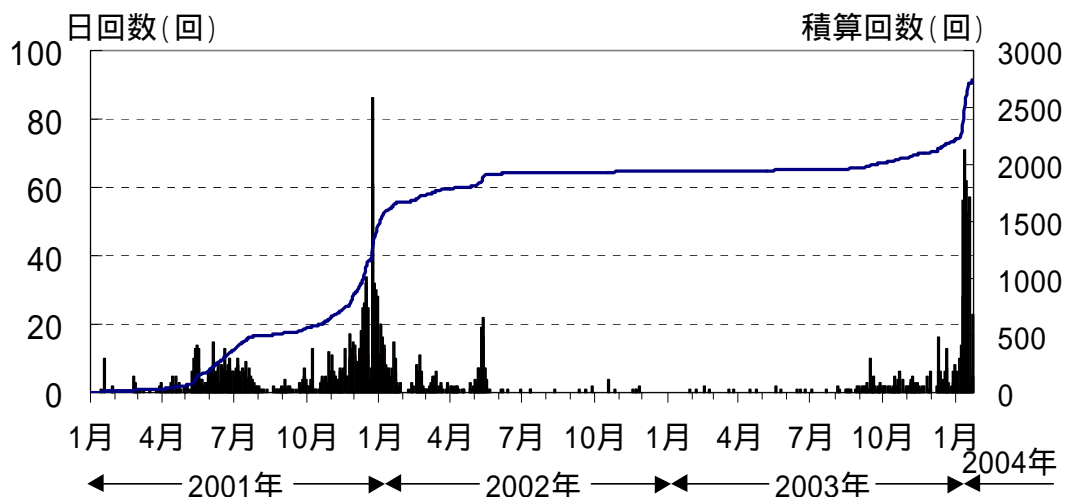


図2 吾妻山 地震の日回数（折れ線は積算回数）（2001年1月1日～2004年1月22日）

浅間山 [地震・微動・熱] レベル2（やや活発な火山活動）

昨年6月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、今期間も1日あたり48～68回とやや多く観測された。

振幅の小さい微動は、19日に1回観測された（前期間は観測されなかった）。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外カメラでは、火口底で引き続き高温部が観測されたものの、高温部の面積は徐々に縮小しており、火口内の温度は全体的に低下しているとみられる。

伊豆大島 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動は静穏で、噴煙は確認されなかった。また、地殻変動等、その他の観測データにも異常な変化はなかった。

三宅島 [噴煙・熱・火山ガス・地震]

噴煙活動は引き続き活発で、白色の噴煙が山頂火口から連続的に噴出した。期間中の噴煙の高さの最高は、火口縁上500mであった（前期間の最高は1,000m）。上空からの観測¹⁾でも、火口全体から白色の噴煙が連続的に放出しているのが確認された。

その他の火口内の状況に特に変化は見られなかった。赤外カメラによる火口内の最高温度は178と依然高い状態であった（前回（1月6日）は229）。

二酸化硫黄の放出量は、20日に行った観測では日量2,800～4,500トンと、長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった（図3）。

振幅の小さいやや低周波の地震の回数は、1日あたり18～49回とやや多い状態で推移した。

GPSによる地殻変動観測では、昨年6月頃から再び三宅島の収縮傾向を示している。

1) 東京消防庁の協力による

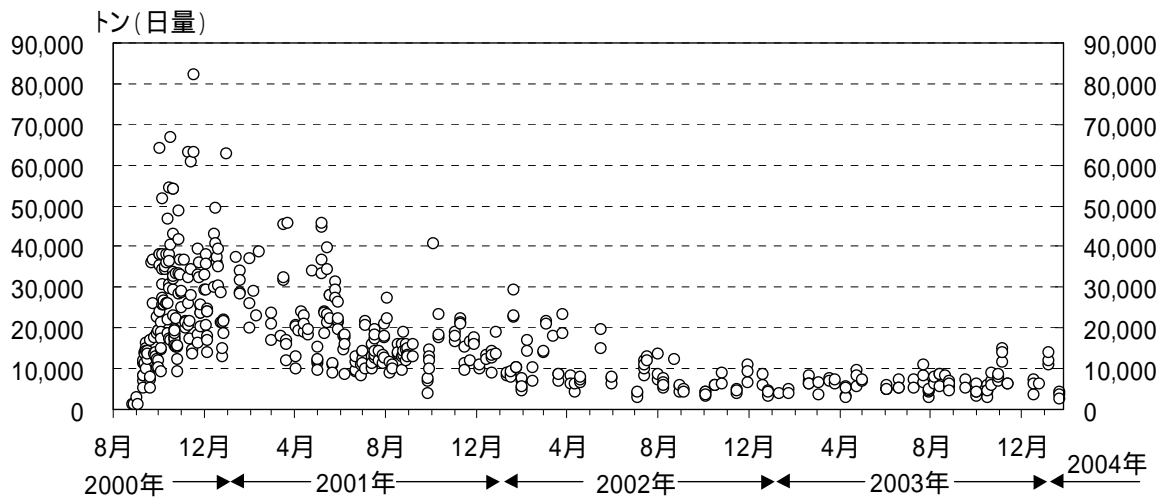


図3 三宅島 二酸化硫黄放出量の推移（2000年8月26日～2004年1月20日）

阿蘇山 [熱・土砂噴出・降灰・微動] レベル3（小規模噴火の可能性）

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発である。前期間の14日に発生したような規模の大きい土砂噴出は発生しなかった。

前期間の14日15時41分頃、中岳第一火口で規模の大きい土砂噴出が発生した。当日と翌15日に行った現地観測、及び15日に九州地方整備局の協力により行った上空からの観測では、火口縁東側の積雪が、幅約300mにわたって土砂噴出によるとみられる噴出物により薄い灰色に変色していた。火口壁については、北東から反時計回りに西側までと、南側の一部で、中段まで黒色の噴出物が付着しているのを確認した。南～東側にかけての火口壁の様子は噴煙のため不明で、2000年以降、赤熱現象が続いていた南側火口壁下の温度も計測できなかった。

火口底の状態は噴煙のためよく観測することができなかったが、噴煙の間から、14日の土砂噴出以前は灰色であった湯だまりの色が黒灰色に変色しているのを確認した。また、高さ約5mの土砂噴出が断続的に発生しており、噴湯現象も1か所で確認した。湯量の減少が続いていた湯だまりの量は、噴煙が多く確認できなかった。

阿蘇山測候所が行った降灰調査により、中岳第一火口の東南東約6kmの阿蘇郡高森町上色見地区かみしきみで、家屋やビニールハウスの屋根、植物の葉等に飛沫状の微量の降灰が確認された。土砂噴出当時、阿蘇山上空は北西の風が強かったため、これに流されたものとみられる。

その後の、熊本大学、森林総合研究所、阿蘇火山博物館の調査によると、火山灰は火口の東南東約8km（阿蘇郡高森町上色見の国道265号線付近）まで、幅1～2kmにわたって分布しており、推定される降灰量は約127トンであった。これは、昨年7月10日の土砂噴出による降灰量とほぼ等しい。

その他の観測データについては、15日16時13分～49分に継続時間36分の微動を観測したが、これに伴う噴煙活動の変化はなかった。孤立型微動は引き続き1,700回程度と多かったが、それ以外は地震の発生回数は少なく、噴煙活動や、GPS等による地殻変動の観測データには特に異常な変化はなかった。

雲仙岳 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも異常な変化はなかった。

霧島山 [噴気]

御鉢の噴気活動は、白色の噴気が17日早朝には火口縁上の高さ200mまで、20日午前中には100mまで、一時的に上がるのが観測されており、消長を繰り返しながら継続している。

その他の観測データについては、微動は発生せず、地震も少ない状態で、GPSや傾斜計による地殻変

動観測にも異常な変化はみられなかった。

桜島 [噴煙] レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火はなかった(前期間は噴火(爆発)1回)。

噴煙活動は活発な状態が継続しており、噴煙の高さの最高は火口縁上700m(乳白色)であった。

鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)では降灰はなかった(前期間も降灰なし)。

諏訪之瀬島 [爆発・噴煙・地震・微動]

21日に爆発が3回発生した(前期間はない)。

噴煙活動はやや活発で、十島村役場諏訪之瀬島出張所により20日に火山灰を含む噴煙が上がるのが確認されたのをはじめ、白色噴煙が最高で火口縁上200mまで上がった。島内の集落(御岳の南南西4km付近)には降灰はなかった。

また、一時的に、微小な地震が多発したり、連続微動状態となるのがみられており、火山活動はやや活発であった。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第25号 (1日2回発表)	15日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
	火山観測情報第38号	21日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第4号	15日 17:35	火山活動が引き続き活発(中岳第一火口の状況、規模の大きい土砂噴出による噴出物の状況等)。火山活動度レベルは3。
	火山観測情報第5号	16日 15:00	
	火山観測情報第6号	19日 13:40	
霧島山	火山観測情報第6号	16日 15:00	御鉢の火山活動は消長を繰り返しながら継続 御鉢の火山活動はやや収まった(噴気活動低下、地震回数が減少)。
	火山観測情報第7号	19日 14:00	